第3回　習志野市市民協働こども発達支援推進協議会
第5回　発達支援サポートネットワーク会議　当日配布資料
平成27年7月29日開催

習志野市発達支援施策ロジック・モデル

平成27年7月21日指標検討ワークショップ

最終アウトカム

障がいの有無に関わらず、自分らしく生きられる

中間アウトカム

成長・発達に対する課題又は障がいのある子どもが、差別・偏見・誤解等により排除されることなく、人として尊重され、社会参加できる

直接目的

01

子どもの発達に心配のある保護者が必要なときに的確な情報・助言を受けることができる

・相談しやすくなる

02

子どもの将来進む道の選択肢が増え、力が発揮できる

・

03

地域の人は、その子どもがどのように困っているのかを理解し、手を差し伸べられる

・市民の多くが（他市と比べ）障がいやその福祉教育について知っている

具体的手段

0101

保護者が、誰かに気軽に子育ての悩みを相談しようと思うことができる

0102

子育てにかかわる支援者が、子どもの発達上の課題に気づき、保護者の話を受け止める

0103

相談機関の連携が整っている

・こども部の中に障がい児の係をつくる

0201

子どもが、様々な体験ができる環境が整っている

・集団生活で遊ぶこと

0202

子どもが、自分に自信を持って将来を展望できる

0203

子どもが、将来力を発揮できる場所がある

0301

地域の人が、困っている子どもについて学ぶことができる機会を持つ

0302

地域の人が、子どもたちと一緒に参加、体験できる機会を増やす

0303

地域の人が、子どもの社会参加を促進する